

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 平成 26 年度の調査結果の概要（略）

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	<p>暴力行為とまではいかないが、言葉でうまく言えず、友だちをたいてしまったり、蹴ってしまったりする事例が見られた。その都度、担任や関係教職員が当事者双方の話をよく聞き、問題点を見つけて、どうすればよいのか、どうすればよかったかなどを考えさせ、お互いが納得できるように解決してきた。</p> <p>また、言語活動の充実により、日頃から自己の思いを伝えるとともに、他者とコミュニケーションをとる活動を行ってきた。更に、道徳教育の充実として、親切・思いやり週間を設けたり、親切・思いやりに関する項目を授業参観で全学年が公開して行ったりした。</p> <p>これらの結果、自分の思いを言葉で伝えようとする態度が身についてきている。</p>
②いじめの状況等	<p>「学校いじめ防止基本方針」を策定し、全教職員で共通理解のもといじめ防止に向けての取組を行ってきた。また、学期に 1 回いじめアンケートを行い、いじめの把握にも努めてきた。</p> <p>これらの結果、いじめ事象については早期に組織的に対応することができた。また、これらの取組が、いじめを未然に防ぐ大きな手立てとなった。</p>
③小・中学校における不登校の状況等	年間 30 日以上欠席している児童が数名いたが、病気による欠席や家庭の都合による等であり、不登校にはあたらない。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	